

俳句的なことから (10)

鈴木しづ子という俳人―その5―

国際社会学者 中嶋 嶺雄

松村巨湫は、『樹海』昭和二十五年十一月号の巻頭にしづ子の五句を「まがふなし」と題して撰し、同時に「しづ子のこと」という長文の句評を書きつづけている。実に水準の高い批評であるが、へ明星に思ひ返へせまがふなしの句を女性としての「動さ」と「断乎たる自己」対決である」と絶賛している。それに比してへ北風のなか昂ぶり果ての泪ぬぐふ〜については、「これはまったく演技である。観客を十分考慮に入れたお芝居である。効果が計算されてゐる。それだけに文学性もある。だがまったく対決性がない」と厳しい。

このような批評を受けられるしづ子は、幸福だったといえようが、一方ではすで見えぬように、しばしば巨湫をてこずらせた。巨湫はそのようなしづ子をもてあます様子もなく、つねに愛しくときには厳しく導いてきたが、しづ子の気ままには相変わらず、投稿が途絶えたかと思うと、昭和二十七年一月二月のように連日百句以上も送句して來ることがあった。

そのしづ子もやがて音信不通になり、『樹海』も巨湫の「格はいく」への転換とともに先細ってゆき、最後はほんの数ページの冊子になってしまふのだが、巨湫は最晩年昭和三十八年の『きのうみ』六月号に「ひさかた振りの鈴木しづ子さん」として架空の地名「狭河」を用いてしづ子の以前の投句を載せ、「格はいく」として「ゆるぎもありません」と評している。以後番号にこのようなことが続くのだが、当時の巨湫の窮状を考えれば、許せないことではなかったと私は思う。

その頃しづ子はどこにいたのだろうか。果たして生きていたのだろうか。しづ子の句によつて語ってもらおう。

コスモスなどやさしく吹けば死ねないよ

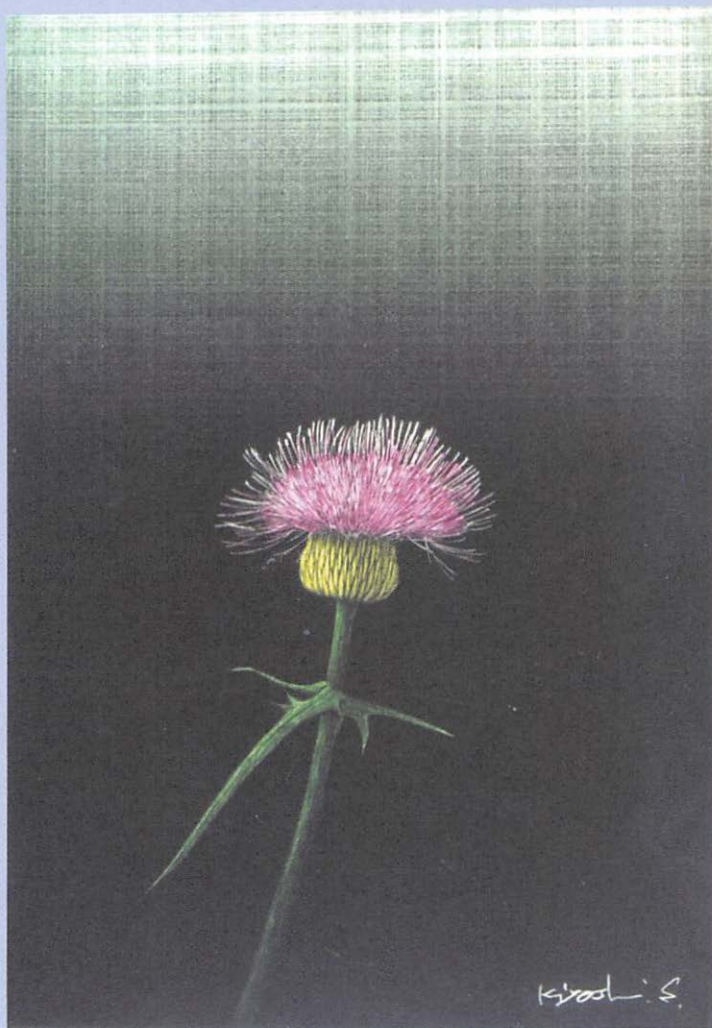
しづ子

―目次(223号)―

俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	1
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	2
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	3
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	4
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	5
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	6
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	7
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	8
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	9
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	10
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	11
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	12
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	13
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	14
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	15
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	16
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	17
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	18
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	19
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	20
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	21
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	22
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	23
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	24
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	25
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	26
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	27
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	28
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	29
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	30
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	31
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	32
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	33
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	34
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	35
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	36
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	37
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	38
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	39
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	40
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	41
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	42
俳句的なことから(10)	表紙絵	斉藤 清	43
俳句的なことから(10)	題字	佐藤 文子	44
俳句的なことから(10)	中嶋	嶺雄	45

信濃俳句通信

平成七年四月十九日 第三種郵便物許可
平成十五年十月十日発行（毎月一回十日発行）
第十九卷第十号十月号（通卷二二三号）



2003 10月号